岩船地域における「こしいぶき」の栽培ごよみ

目標の収量構成と品質	
目標収量	540kg/10a
穂数	380本/㎡
1穂籾数	72粒
㎡当り籾数	27,000粒
登熟歩合	90%
千粒重	22.0g
検査等級	全量１等
玄米タンパク質	6.2%

栽培のポイント

(1)健苗育成 ： ①育苗日数は20日程度（加温20日、無加温25日）
②播種は4月15日以降、播種量は乾籾140ｇ/箱
③苗は伸びにくいので、出芽長を１cm以上確保

(2)過剰生育防止 ： ①１株苗数3～4本植えとし、茎質向上
②栽植密度は60株/3.3㎡
③基肥窒素量は3～4kg/10a程度
④中干し・溝切りを徹底し、根の健全化と茎質向上

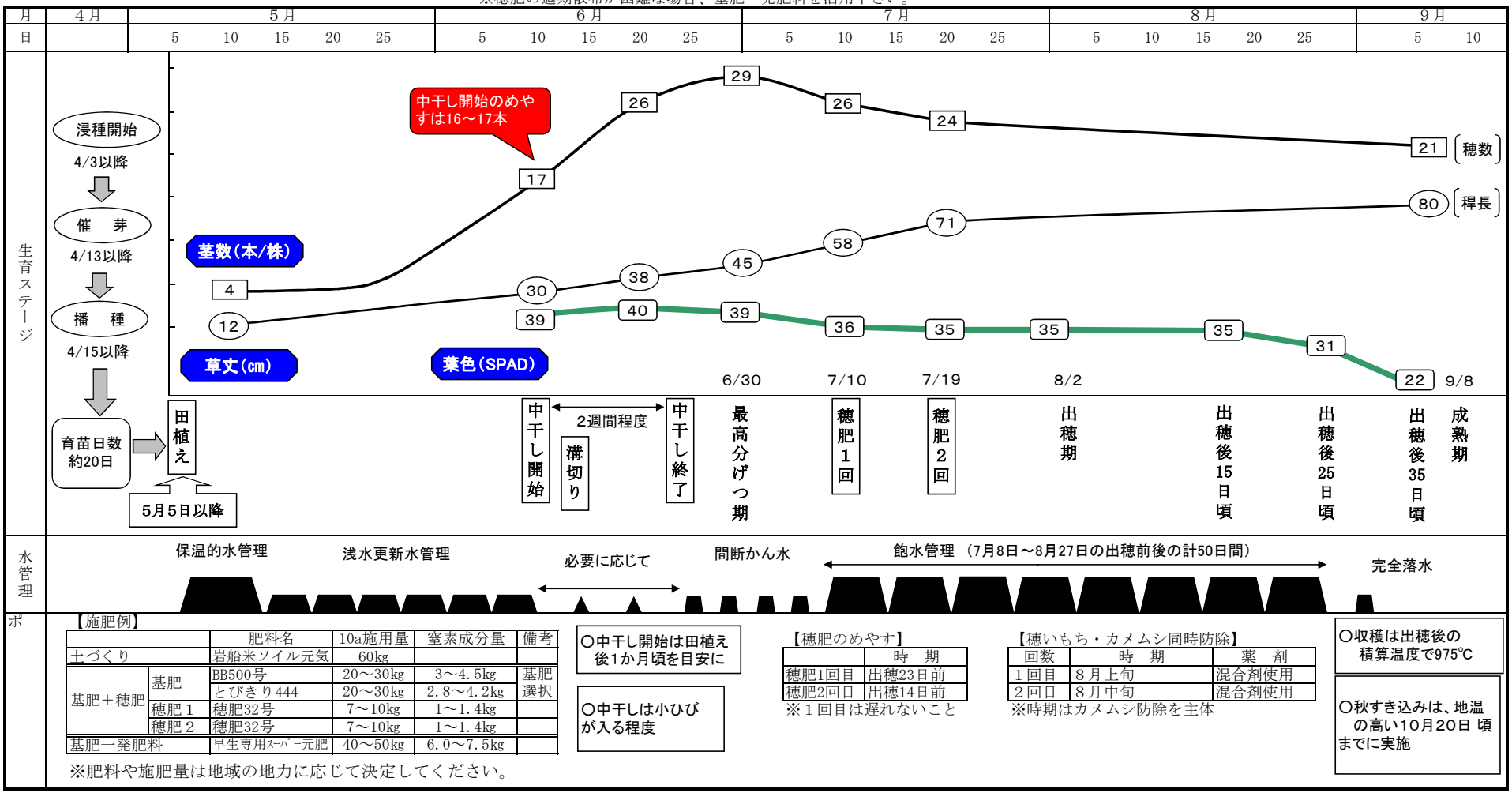
(3)後期栄養確保 ： ①１回目の穂肥時期が幼穂形成期であるため、幼穂確認と遅れない穂肥
②出穂前後25日間は飽水管理とし、田面を乾かさず地力窒素の発現を促進
③落水は出穂30日以降とし、登熟向上
※穂肥の適期散布が困難な場合、基肥一発肥料を活用下さい。

(4)病害虫防除 ： ①いもち病の箱処理剤使用
②いもち病とカメムシ類の同時防除
③紋枯病に弱いので発生量に応じた適期防除

(5)胴割れ発生防止 ： ①刈り遅れしない適期収穫
②刈取水分に応じて乾燥温度を調節

(6)土づくり ： ①稲わらの秋すき込み
②土づくり肥料や堆肥等有機物の施用

基本は「適正生育量の確保」と「登熟の良い稲づくり」



ポ

【施肥例】

		肥料名	10a施用量	窒素成分量	備考
土づくり		岩船米ソイル元気	60kg		
基肥＋穂肥	基肥	BB500号	20～30kg	3～4.5kg	基肥選択
		とびきり444	20～30kg	2.8～4.2kg	
	穂肥１	穂肥32号	7～10kg	1～1.4kg	
	穂肥２	穂肥32号	7～10kg	1～1.4kg	
基肥一発肥料		早生専用ｽｰﾊﾟｰ元肥	40～50kg	6.0～7.5kg	

※肥料や施肥量は地域の地力に応じて決定してください。

○中干し開始は田植え後1か月頃を目安に

○中干しは小ひびが入る程度

【穂肥のめやす】

	時　期
穂肥1回目	出穂23日前
穂肥2回目	出穂14日前

※１回目は遅れないこと

【穂いもち・カメムシ同時防除】

回数	時　期	薬　剤
１回目	８月上旬	混合剤使用
２回目	８月中旬	混合剤使用

※時期はカメムシ防除を主体

○収穫は出穂後の積算温度で975℃

○秋すき込みは、地温の高い10月20日 頃までに実施